

## 平 三 郎 君 を 悼 む

池 田 徹 郎\*

1969年9月3日、緯度観測所工作係長、平三郎君が急死された。君は1923年3月、同所に機械工見習として入所した。5人の候補者の中から木村所長自からの厳重な試験の結果合格したものであった。水沢高等学校卒業したてのかわいい少年であった。その頃の工作主任は初老の榊留次郎という万能の機械工で、この人は旧制第一高等学校の理科教室に勤めていたのを木村博士に見出されて水沢に来た人であった。この榊氏に仕込まれたことは平君の第1の仕合せであった。第2の仕合せ（これが君の最大の仕合せであった）は君が木村博士に愛されて、直接に指導を受けるようになったことであり、第3の仕合せは水沢が次第に発展し、終に再度中央局となり、その間に研究施設も大いに整備され、君が多くの一流器械を手掛けることができたことであったと思われる。これらの点について少し述べてみたいと思う。

まず平君は榊職工長の下で、気象、地震等の観測器械の手入れ、組立て、修理、製作等の技術をみがいた。一例を挙げると、榊氏は君と共に中型の振子時計2個を、すべて手造りで製作した。歯車などもヤスリで刻んで作ったものである。このような訓練が若い平君にはずいぶん役に立ったものと思われる。君はまた蓄電池の保守、配線等の監視、その他建築、土木、測量等の技術も習得

\* 前緯度観測所長

し、いずれもめきめき上達し師を凌いで緯度観測所にはなくてはならぬ人材となった。

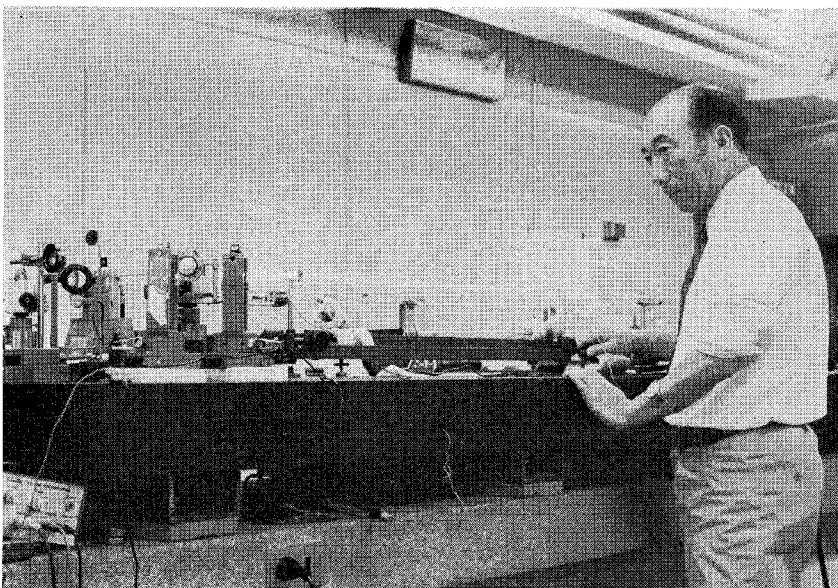
次に木村博士については、博士の天文器械に対する愛情と、その取扱いについての細心さとは、現在よい器械が容易に手に入る世代の人々には想像できないほどこまやかなものであった。博士は天頂儀の手入れは必ず自分で手掛けられたが、助手としては常に平君を使われた。このようにして君は一流の精密器械の取扱いについてもその神髄を会得したのである。

平君の徹底した仕事振りの一例として、例のクモの巣について記そう。第2次大戦中水沢では望遠鏡の視野に張るクモの糸が品切れとなり、輸入の途がなかったので木村所長は君にクモの巣さがしを命じた。君はまずある大学のクモ専門の先生から分厚いクモ図鑑を借用して熱心にしらべていた。（私もその図鑑を見せられたが、残念ながらその大学と先生のお名前を忘れてしまった。）それが役に立ったか、君はそれから盛んに山野を歩き廻って、目的のクモの巣を見付け、木村先生直伝の方法で、見事に望遠鏡のクモ糸の張り替えをするようになった。一口にクモの糸張りといっても、視天頂儀のような一流器械ではなかなかむづかしいものである。

さて水沢でも戦争をはさんで、その前後に事業が次第に発展し、各種の観測器械や施設が順次増してきた。

その主なものは、戦前、1938年、浮遊天頂儀、戦中、1945年、赤道儀、戦後1955年、PZT、1964年、アストロラープ、等が新設され、これに付随して、水晶時計、無線報時受信装置等も設備された。これらの新しい器械や施設についてもすべて平君の手をわずらわした。

また1962年、水沢に再度、緯度変化事業の中央局が置かれるようになった結果、庁舎の新築、実験、研究施設の画期的増強等が行なわれ、それらについても平君は大きな働きをした。



リングレーザーを調整中の平三郎氏（1969年8月）

その主なものを列記してみると、君の本拠である工作室の新築および内容の充実についてはもとより、実験研究設備として、アスカニヤ重力計、メルキオール型傾斜計、自動測定コンパレーター、視天頂儀観測の自動化、電磁型地震計の新設、気象の隔測および日記装置、等のすべての整備調整に君は大きな寄与をした。さらに君が近時最も力を注いだのは、高木博士の研究を助けて、リングレーザー光線により、天体観測にたよらず、地球の自転速度を検出する装置の製作にたずさわったことである。この原理を一口でいえば、地上に置いた光源から発射するレーザー光線の、地球自転に依るドブラー効果を応用して、地球自転速度を測るものである。この大事業の途中で斃れた君の心残りが思いやられる。

次に、君のいま一つの業績、日食観測について付け加えたい。君は次のとおり4回の日食観測に従事した。

1) 1941年服部技師に従って、台湾アジンユートの皆既日食観測、2) 1943年服部技師に従って釧路における皆既日食観測、3) 1948年、須川技官に従って礼文島の金環食観測、4) 1963年、古川技官に従って網走の皆既日食観測。君はこれらの観測に当って器械の整備、観測の助手はもとより、現地における事務的交渉、現場の設

営等を引受け万能振りを発揮した。

以上のように、君は観測者、研究者に対して、よい助言者となり、有能な助手となって重宝がられた。君はこれらの功により、1960年に科学技術庁長官より表彰され、1967年には第1回吉川英治賞を受け、死後1969年9月3日に勲六等単光旭日章を授けられた。

なお君の日常について付け加えたい。君は専門の仕事の上だけでなく、世事一般の事についても研究心が旺盛で何でもよく勉強していた。その上親切で人の世話もよくしたので誰からも愛され、親しまれた。君の趣味の第1は庭球だった。岩手県でも屈指の名選手で、その果敢な攻撃振りには定評があった。去る8月31日(1969年)仙台で開かれた林牌軟式庭球大会(岩手、宮城、山形、福島県下の文部省所轄、大学研究所間の親善庭球大会、優勝チームに林教授牌が贈られる)に出場、競技中脳出血で倒れ、9月3日仙台市立病院で永眠した。享年60才。ご遺族はキヌ未亡人の外に、2人の男子があり、共に岩手大学を卒業して教職につき、長男は家を継ぎ、次男は邸内に分家を建て、一族団欒の羨しき御家庭である。

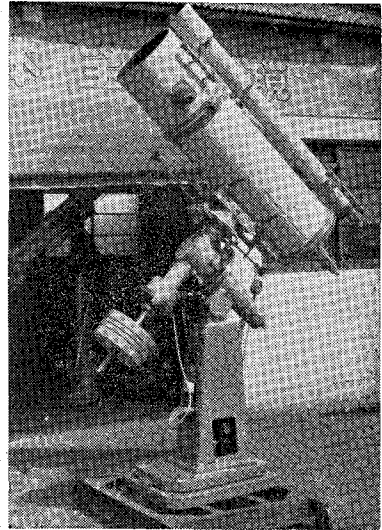
## 西村製の反射望遠鏡

- |      |     |                                    |
|------|-----|------------------------------------|
| 30cm | “A” | カセグレン・ニュートン兼用<br>10cm 屈折望遠鏡 (f/15) |
|      | “B” | カセグレン焦点<br>15cm 屈折望遠鏡 (f/12)       |
| 40cm | “A” | カセグレン・ニュートン兼用<br>15cm 屈折望遠鏡 (f/15) |
|      | “B” | カセグレン焦点<br>20cm 屈折望遠鏡 (f/12)       |

株式会社 西村製作所

京都市左京区吉田二本松町27  
電話 (771) 1570, (691) 9589

カタログ実費90円郵券同封



30 cm 反射望遠鏡

ニュートン・カセグレン兼用